

巻 頭 言

第 3 号発刊によせて

本年第 1 回生を送り出しました。そして、第 1 回生にはじめて研究指導、研究論文作成指導に当たった年でもありました。自分が研究をするということと、学生に研究指導をするということの違いに気づかれた教員もいることと思います。研究指導をするには、実際に研究に取りかかり、何よりも研究することの楽しさ、面白さ、新事実の発見の喜び、そして、研究の大変さ・難しさを越えた体験を実感としてもっていることが大切なのかも知れません。

今回 3 号目の掲載論文を見ますと報告と資料であり、原著と言われるものがないことに気づきます。しかし、テーマを見ますと、いずれも地に足がついたそれぞれの領域の特性を示す価値のある、活用できる論文が並んでいるように思い、それぞれの研究された教員の看護に、あるいは看護教育によせる真剣さが伝わってきます。

多分、原著にまで至らなかったのは、時間の限界かと思ったりもいたしますが、次年度はこれをもとに原著論文まで成長させて頂きたいという思いもあります。あるいは、論文審査のきびしさかも知れません。

何よりも、こうした仲間の業績を丁寧に読み合い、意見交換をし、看護について、看護研究について、看護教育について、切磋琢磨できる機会としてこの紀要を十分に活かして頂きたいと願います。紀要委員会の皆さまのご苦勞に感謝いたします。

平成 22 年 3 月吉日

埼玉医科大学保健医療学部看護学科

学科長 岡部 恵子